

Ruth Marie GRUBEL教授退職記念号によせて

著者	難波 功士
雑誌名	関西学院大学社会学部紀要
号	131
ページ	5-6
発行年	2019-03-12
URL	http://hdl.handle.net/10236/00027709

Ruth Marie GRUBEL 教授退職記念号によせて

社会学部長 難 波 功 士

ルース・グルーベル先生は、1974年5月にインディアナ大学ココモ校を卒業され、同大学ブルーミントン校東アジア研究修士課程を経て、ネブラスカ大学リンカーン校政治学大学院にて1980年7月に政治学修士号、1986年8月には政治学博士号を取得されました。職歴としては、1984年9月にイリノイ州のクインシーカレッジ政治学講師に始まり、翌年9月からはウイスコンシン大学ホワイトウォーター校に移られ、講師・助教授・教授として教鞭をとり続けられました。そして、1996年4月からは関西学院宣教師ならびに関西学院大学社会学部助教授として赴任され、1998年4月に同教授に就任されました。

関西学院大学着任以来、講義科目としては一貫して「政治社会学」を担当され、政治に関わる組織・制度・運動の国際比較などを通じて、学生とともによりよき市民社会のあり方を考え、構想することを続けてこられました。研究面においても、生活協同組合を主たる研究対象とし、それが環境保護、女性のエンパワーメント、国際的な連帯などに果たした役割を論じてこられました。そして、そうした消費者の協同活動とキリスト教との関係にも着目されてきました。また、阪神・淡路大震災の経験も、先生の研究においては非常に重要な意味を有しており、そこから多くの教訓や提言を導き出しておられます。

こうした教育・研究面とともに、特筆されるべきは、先生がつねに学校法人関西学院のために、とりわけそのキリスト教主義教育のためにご尽力を続けられた点です。1998年4月より今日に至るまで学校法人関西学院評議員を、また2004年4月より現在に至るまで理事を務められ、2007年4月から2016年3月までは、3期9年の長きにわたり院長の重責を担われました。創立125周年に当たる2014年7月に、キャロライン・ケネディ駐日米国大使（当時）の上ヶ原キャンパスへの訪問、学生との交流が実現したのも、グルーベル院長あればこそでした。

また多忙を極める院長の職務と同時に、先生は2010年4月から2016年3月まで教育連携室長として院内校（関西学院初等部・中学部・高等部、関西学院千里国際中等部・高等部）や継続校（啓明学院中学校・高等学校）などと関西学院大学との教育連携を統括され、2011年4月より2016年3月まで高中部長、2012年4月より2016年3月まで初等部長の職にも就かれていました。

そうした関西学院内の役職とともに、先生は1996年10月より2012年12月までと2016年4月よりの期間、学校法人啓明女学院理事（2005年4月に啓明学院に法人名変更）を、1999年4月より2009年3月まで学校法人聖和大学理事を、2017年4月より準学校法人パルモア学院理事を務められ、関学ファミリーとも言うべき諸学校との関係づくりに励まれました。また、1999年4月より2007年3月まで学校法人神戸女学院評議員を、2001年7月より2010年5月まで学校法人静岡英和女学院理事を務められ、またキリスト教学校教育同盟においても要職を歴任されてきました。こうした社会的な活動も、すべての人に敬愛される先生のお人柄ゆえのことと思われまます。

関西学院大学における教育や校務への貢献としては、1997年10月から2005年3月にかけての国際交流副部長としての、2005年4月から2007年3月までの国際教育・協力センター副長としてのお働き、さらには総合コース・コース担当代表者や人権科目（全学開講）・科目担当代表者として講義のコーディネイトを長年にわたり引き受けられた点も見逃せません。社会学部においても、Sociology in English という英語で社会学を学ぶ科目とともに、研究演習（3、4年生に担当されるいわゆる「ゼミ」）も担当され、英語での卒業論文作成に取り組む学生たちの指導に当たってこられました。もちろん、社会学部所属の宣教師として、学部のキリスト教教育全般にわたり、献身的に取り組んでこられたことは言うまでもありませ

ん。

温厚で謙虚なお人柄と信仰に裏打ちされた使命感ゆえに、多くの人々から尊敬と信頼を集め続けられたグルーベル先生が本学を去られることは、残された者たちにとってさびしい限りです。今後とも学校法人関西学院を見守っていただきますよう、関西学院の構成員一同に成り代わりまして、改めてお願い申し上げます。